

資料

茨城県桜川市の国指定名勝・天然記念物のサクラの種類

勝木俊雄*・日向岳王**・渡邊雄司***, ****・磯部 亮*****・山川拓也*****

(2018 年 10 月 30 日受理)

Taxa of Flowering Cherry in the National Place of Scenic Beauty and the Natural Monument in Sakuragawa City, Ibaraki Prefecture

Toshio KATSUKI*, Takeo HINATA**, Yuji WATANABE***, ****, Makoto ISOBE*****
and Takuya YAMAKAWA*****

(Accepted October 30, 2018)

Abstract

“Sakuragawa cherry” is the name of flowering cherries in the National Place of Scenic Beauty and the Natural Monument in Sakuragawa City, Ibaraki Prefecture. In order to identify the species of the cherries, we investigated a total of 493 individuals by morphological observation. As a result, we confirmed 223 individuals of *Cerasus jamasakura*, 28 of *C. leveilleana* and 78 interspecific hybrids between these two species, all of which are native to the surrounding natural forests. In addition, eight planted taxa including *C. sargentii*, *C. speciosa*, *C. ×yedoensis* ‘Somei-yoshino’ and hybrids presumed to be crosses between *C. jamasakura* and ‘Somei-yoshino’ were also confirmed.

Key words: *Cerasus jamasakura*, *C. leveilleana*, *C. ×yedoensis* ‘Somei-yoshino’, hybridization.

はじめに

茨城県桜川市磯部にある国の名勝「桜川（サクラ）」は、1924 年に指定を受けた（文化庁，2018）。その後、1974 年に指定域が広がる名勝の追加指定、および天然記念物「桜川のサクラ」としての重複指定を受けている（文化庁，2018）。名勝・天然記念物の指定域は桜川磯部稲村神社の参道を中心とした部分だが（桜川

市，2018）、指定域の北側の桜川磯部稲村神社および東側の磯部桜川公園までを含めた一帯に多くのサクラが植栽され、観賞対象となっている。ただし、1974 年の天然記念物指定時に 577 本あったとされる「ヤマザクラ」はその後衰退して枯死した個体も多く見られる。そこで、地域住民によるサクラサクリプロジェクトが 2005 年に設立され、名勝・天然記念物を中心としたサクラの再生に取り組んでいる（サクラサクリプ

* 森林総合研究所多摩森林科学園 〒193-0843 東京都八王子市廿里町 1833-81 (Tama Forest Science Garden, Forestry and Forest Products Research Institute, Forest Research and Management Organization, National Research and Development Agency, Japan, 1833-81 Tadori, Hachioji, Tokyo 193-0843, Japan).

** ミュージアムパーク茨城県自然博物館 〒306-0622 茨城県坂東市大崎 700 (Ibaraki Nature Museum, 700 Osaki, Bando, Ibaraki 306-0622, Japan).

*** サクラサクリプロジェクト 〒309-1214 茨城県桜川市東桜川 1-21-1 (Sakura Sakusato Project, 1-21-1 Higashi-sakuragawa, Sakuragawa, Ibaraki 309-1214, Japan).

**** 桜川市 〒309-1293 茨城県桜川市羽田 1023 (Sakuragawa City Hall, 1023 Haneda, Sakuragawa, Ibaraki 309-1293, Japan)

***** 一般社団法人桜川保勝会 〒309-1211 茨城県桜川市岩瀬 136-1 (Sakuragawa Hoshokai, 136-1 Iwase, Sakuragawa, Ibaraki 309-1214, Japan).

プロジェクト, 2018)。さらに、桜川市では 2016 年に制定した「桜川市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の中で「ヤマザクラの保全と管理手法の形成」を掲げ、市としても名勝・天然記念物の再生に取り組み始めた(桜川市, 2018)。こうした保全活動をおこなうためには、名勝・天然記念物に指定されているサクラの現況を把握することがきわめて重要である。なかでも正確な種類の把握はもっとも基礎となる情報だが、これまで正確な調査はおこなわれていなかった。そこで、指定域を含む一帯に植栽されているサクラの種について調査した。

調査地および方法

調査は茨城県桜川市磯部の国の名勝・天然記念物の指定域に加え、櫻川磯部稲村神社および磯部桜川公園を含めたサクラが植栽されているエリア全体でおこなった。磯部桜川公園は天然記念物の指定を受けたのち、1980 年から新たに作られた都市公園であり、1987 年に完成された(桜川市, 2018)。したがって新たに造成された部分にあるサクラは 1980 年以降に植栽されたものである。桜川市に合併される前の岩瀬町時代に示した面積によると、面積 4.4 ha の磯部桜川公園の中に名勝・天然記念物の面積 0.7 ha の指定区域が含まれており、ともに桜川市が所有・管理している(サクラサクリプロジェクト, 2018)。ただし、その境界は曖昧となっており、正確な指定区域にあるサクラの個体も明らかにされていない。そこで、本調査では「神社」と「参道」、「指定域内公園」、「指定域外公園」におおまかに区分したが、今後の見直しでこれらの区分は変更される可能性もある。また、これらの区域全体のサクラについて、「桜川の桜」と総称して記述することにする。

調査区域ごとに個体番号をつけ、2018 年 4 月 3、4、12 日に花の観察を計 493 個体、写真撮影を 120 個体、花および若葉の標本の採取を 329 個体に対しておこなった。また、葉の展開が終わったあとの 2018 年 6 月 28 日に成葉の標本の採取を 130 個体に対しておこなった。なお、104 個体については観察・写真撮影・花と葉の採取すべてをおこなった。

同定にあたって、サクラの分類体系は勝木(2016)に、同定手法は勝木(2016; 2017a)にしたがった。なお、桜川では三好(1921b)をもとに、三好 学によっ

て名付けられた 11 種類のサクラ(梅鉢桜・桜川匂・源氏桜・大和桜・青毛桜・薄毛桜・青桜・白雲桜・初見桜・樺匂・初重桜)が桜川特産の種類として特に重要視されている(サクラサクリプロジェクト, 2018; 桜川市, 2018)。これらのサクラは三好が「ヤマザクラ」の品種(form.) などとして学名を発表したものである。ただし、三好は 16 分類群(梅鉢桜・大花桜・小梅桜・太枝桜・桜川匂・源氏桜・磯部匂・大和桜・青毛桜・薄毛桜・八房毛桜・立毛桜・白雲桜・初見桜・樺匂・初重桜)を桜川産として記載している(Miyoshi, 1916a; 1920)が、三好(1921a, 1921b)では、これらのうち 10 分類群が桜川産のサクラとして記述されている一方、大花桜と小梅桜、太枝桜、磯部匂、八房毛桜、立毛桜の Miyoshi (1916a) で記載された 6 分類群は記述されていない。また、青毛桜は Miyoshi (1916a) で水戸桜川、桜川、小金井産として、青桜は Miyoshi (1920) で水戸桜川産として記載されている。青桜は三好(1921a, 1921b)でも水戸桜川産とされており、桜川産の記述はない。本調査はこれら三好 学が記載した 17 分類群についても、得られる資料から同定を試みた。

結果および考察

調査域全体で 493 個体について、花の観察をおこなったが、これは全個体のおよそ 7 割に相当した。特に指定域外公園では、未調査の個体を 100 個体以上も残したため、今後も継続して調査する必要があると考えた。調査の結果、確認したサクラの分類群のリストを以下に示す。なお、調査域にはイヌザクラ(*Padus buergeriana* (Miq.) T.T.Yü et T.C.Ku) が生育していたが、狭義のサクラ属(*Cerasus*)ではないため、リストから除外した。

A) カンヒザクラ

Cerasus campanulata (Maxim.) Masam. et Suzuki

参道に植栽されている 1 本が確認された。比較的若齢の個体で公園がつくられはじめた 1980 年以降に植栽されたと考えられた。花は特徴的な赤色で早春に咲くことから、明らかにほかと区別される。なお、カンヒザクラとヤマザクラの雑種と考えられる栽培品種‘寒桜’(*C. ×kanzakura* ‘Praecox’) 1 本が指定域外公園で確認された。‘寒桜’も独立した雑種分類群とし

てカンヒザクラとは別に扱うべきであろうが、親種の推定が不確かなので、本稿ではカンヒザクラの中に含めた。

B) エドヒガン

Cerasus itosakura (Siebold) Masam. et Suzuki

参道に野生型の古木が1本植栽されていたが、2013年に強風で倒れて処分された。2018年現在、生存している野生型のエドヒガンは確認されなかった。指定域外公園に栽培品種の‘八重紅枝垂’（‘Plena-rosea’）が3本確認された。また、桜川磯部稲村神社の今回調査対象としなかった区域に野生型のエドヒガンや‘枝垂桜’（‘Pendula’）が植栽されていた。花は小輪で‘染井吉野’よりもやや早く咲くことから、明らかにほかと区別される。

C) ヤマザクラ

Cerasus jamasakura (Siebold ex Koidz.) H. Ohba var. *jamasakura*

Synonym: 源氏桜 *Prunus mutabilis* Miyoshi f. *grandis* Miyoshi, 大和桜 *P. mutabilis* f. *insignis* Miyoshi, 初重桜 *P. mutabilis* f. *insignis* subf. *plena* Miyoshi, 初見桜 *P. mutabilis* f. *nova* Miyoshi

全域から223本が確認された。天然記念物指定時に記録された「推定樹齢250年」のような古木はなかったが、神社や参道などには1980年代以前植栽と考えられる比較的古い個体も残されていた。一方、指定域外公園の多くは造成が始まった1980年以降の植栽と考えられた。典型的なヤマザクラの花は白色で中輪、若芽は赤色、‘染井吉野’よりもやや遅れて咲く（図1）が、後述するようにカスミザクラおよび‘染井吉野’との雑種と推定される個体も多く植栽されており、区別しがたい中間的な個体も確認された。

三好（1924）は、名勝指定時の報告において、「櫻川ノ櫻ハ東北地方ニ産スル白山櫻ノ天然変種ヲ代表スルモノ」と記述しているが、この「白山櫻」とは、種としてのヤマザクラではなく、ヤマザクラとカスミザクラと考えなければならない。その理由として、三好は後年にいたるまでカスミザクラを独立した種として認識しておらず、「山桜」を「白山桜」と「紅山桜」（オオヤマザクラ）に区分しており（三好 1921a）、この区分でカスミザクラは「白山桜」に含まれることになる。つまり、三好はカスミザクラを独立した種とし

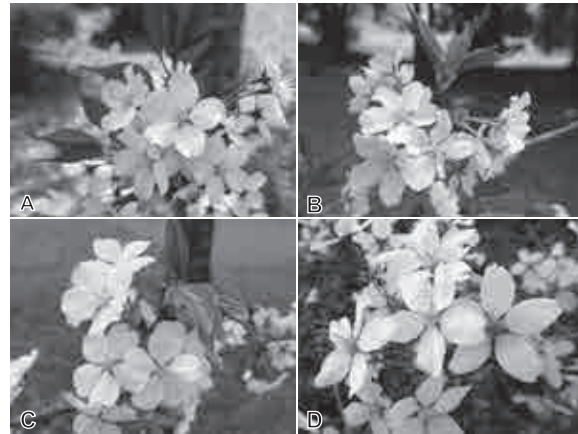


図1.「桜川の桜」で確認されたヤマザクラ (A: P007) とヤマザクラ×カスミザクラ (B: P006)、カスミザクラ (C: P557)、エドヒガン×ヤマザクラ×オオシマザクラ (D: P203) の花 (P007とP006, P203は2018年4月3日撮影, P557は2018年4月12日撮影, P006とP007, P203, P557は調査した個体の識別番号)。

Fig. 1. Flowers of *Cerasus jamasakura* (A: P007), *C. jamasakura* × *C. leveilleana* (B: P006), *C. leveilleana* (C: P557) and *C. itosakura* × *C. jamasakura* × *C. speciosa* (D: P203) confirmed as “Sakuragawa cherry” (P007, P006 and P203 were photographed on 3 Apr. 2018, and P557 on 12 Apr. 2018. P006, P007, P203 and P557 are identification numbers of the investigated individual).

て認識していなかったと考えられる。また、三好が桜川から記載した源氏桜と初重桜、初見桜は三好の文献（三好 1916a; Miyoshi 1920; 三好 1921a, 1921b）や桜川磯部稲村神社で現在栽培されている個体の観察の結果、ヤマザクラの種内変異に含まれる個体変異と考えられた。大和桜は花を観察出来ず、Miyoshi (1916a) の図と三好 (1921a) の「赤芽・白花」の記述から判断した。ただし、本来であればこうした分類群の再検討はタイプ標本を用いるべきであるが、三好が残したタイプ標本はきわめて少なく（勝木, 2017b）、桜川産の標本もこれまで確認されていない。今後、これらの分類群を検討するためには、三好の文献と新たに磯部稲村神社から採取した標本とを、慎重に比較して進めた後に、新たにレクトタイプを選定する必要がある。また、これらの分類群を栽培品種として扱うべきかについて、個別に特徴が際立っているのか、実際に栽培品種として増殖・流通しているのかといった視点から検討される必要がある。

なお、桜川市の二次林などには自生するヤマザクラが数多く確認されており、名勝・天然記念物に指定されたサクラも本来はこうした周囲の自生集団に由来す

ると考えられた。ただ、桜川市の自生のヤマザクラは関東南部で見られるヤマザクラと比較すると、成葉の鋸歯がやや粗い、花の苞がやや幅広い、花序柄が短いといった形態的な特徴から、カスミザクラが交雑していると思われる。ヤマザクラの分布の北限ではカスミザクラとの浸透交雑が生じていると考えられ (Tsuda et al., 2009)、桜川でもカスミザクラとの浸透交雑が生じている可能性が考えられた。

磯部稲村神社に、現在「樺桜」の名称で栽培されているヤマザクラが確認されたが、「カバザクラ」の読み方から、ウワミズザクラ (*Padus grayana* (Maxim.) C.K.Schneid.) の異名の「樺桜」のほか、埼玉県北本市にある国の天然記念物「石戸蒲サクラ」に関連する可能性が考えられた。しかし、「石戸蒲サクラ」に対して、Miyoshi (1916b) は *Prunus mutabilis* f. *subsessilis* Miyoshi の学名を発表したが、現在ではエドヒガン×ヤマザクラと考えられている (勝木, 2016)。Miyoshi (1916b) が「樺桜」と命名したサクラは存在しないことから、磯部稲村神社の「樺桜」はなんらかの理由で誤った名称が伝わった可能性が考えられた。

D) カスミザクラ

Cerasus leveilleana (Koehne) H. Ohba

Synonym: 立毛桜 *Prunus mutabilis* f. *ascendens* Miyoshi, 八房毛桜 *P. mutabilis* f. *villosa* Miyoshi, 青桜 *P. mutabilis* f. *viridifolia* Miyoshi, 青毛桜 *P. mutabilis* f. *viridipubescens* Miyoshi

全域から 28 本が確認された。ヤマザクラと同様に老木木はないが、神社や参道などに 1980 年代以前植栽と考えられる比較的古い個体も残されていた。典型的なカスミザクラの花は白色から薄い淡紅色で中輪、若芽は褐色、ヤマザクラより明らかに遅れて咲く (図 1)。また、小花柄が有毛 (図 2)、苞が倒三角形 (図 3)、葉は倒卵形 (図 4)、葉縁の鋸歯は粗く (図 5)、ヤマザクラとは多くの異なる点がある。しかし、後述するヤマザクラとの雑種と考えられる個体が数多く確認され、正確な同定は困難であった。

三好 (1921a) がカスミザクラを種として認識しなかったと考えられることから、これまで桜川の名勝・天然記念物には、ヤマザクラだけが挙げられていた。しかし、指定当初の「ヤマザクラ」には、相当数のカスミザクラが含まれていたと考えられる。本調査においても、参道のほか指定域内公園や神社の比較的古い

植栽木にカスミザクラが確認され、名勝指定以前から植栽されていた個体も残されている可能性が考えられた。なお、三好が学名を発表した立毛桜と八房毛桜、青桜、青毛桜はいずれもタイプ標本を見いだせなかったため、Miyoshi (1916a) と三好 (1921a) において花柄や葉柄が有毛と記述されていることからカスミザクラと判断した。また、本調査で参道から「青桜」と「青毛桜」と現地で伝えられている個体を観察したが、いずれも本来のタイプ産地は水戸桜川であることから (Miyoshi, 1916a; 三好, 1921a)、タイプとは無関係と考えた。

カスミザクラはヤマザクラと同様に桜川市の二次林などに数多く自生しており、名勝・天然記念物のカスミザクラもこうした周囲の野生集団に由来すると考えられた。ただし、観察したところ自然林中のヤマザクラとカスミザクラの割合はおおよそ同程度であったが、調査地でのカスミザクラの割合は 1 割程度で明らかに天然林より低かった。これまで、カスミザクラは花が咲く時期が遅いことから、観賞用にほとんど用いられてこなかった歴史がある (勝木, 2009)。桜川でも同様に観賞価値の判断から過去にカスミザクラよりもヤマザクラ、あるいはヤマザクラ×カスミザクラが優先して利用されてきた可能性が考えられた。

E) オオヤマザクラ

Cerasus sargentii (Rehder) H. Ohba var. *sargentii*

指定域外公園に 1 本確認された。1980 年以降に植栽されたと考えられた。花は淡紅色から黄色で中輪、'染井吉野' よりもやや遅れて咲き、花序柄がないことから、ヤマザクラやカスミザクラと明確に区別される。茨城県内にオオヤマザクラは自生しておらず (鈴木ほか, 1981)、桜川とは関係ない産地から持ち込まれたと考えられた。

F) オオシマザクラ

Cerasus speciosa (Koidz.) H. Ohba

指定域外公園に 1 本確認された。1980 年以降に植栽されたと考えられた。花は白色で大輪、'染井吉野' よりもやや遅れて咲き、若芽が緑色であることから、他と明確に区別される。オオシマザクラはもともと伊豆諸島に分布する種だが、現在では千葉県や神奈川県など関東南部などで広く野生化しており、ヤマザクラとの交雑も見られる (河津, 2001; 2003)。また、花が



図2. 「桜川の桜」で確認されたヤマザクラ (A: P007) とヤマザクラ×カスミザクラ (B: P006), カスミザクラ (C: P557), エドヒガン×ヤマザクラ×オオシマザクラ (D: P203) の萼片と花床筒 (P007 と P006, P203 は 2018 年 4 月 3 日採取, P557 は 2018 年 4 月 12 日採取, スケールバーは 10 mm).

Fig. 2. Calyx lobes and hypanthium tubes of *Cerasus jamasakura* (A: P007), *C. jamasakura* × *C. leveilleana* (B: P006), *C. leveilleana* (C: P557) and *C. itosakura* × *C. jamasakura* × *C. speciosa* (D: P203) confirmed as “Sakuragawa cherry” (P007, P006 and P203 were collected on 3 Apr. 2018, and P557 on 12 Apr. 2018. Scale bar : 10 mm).

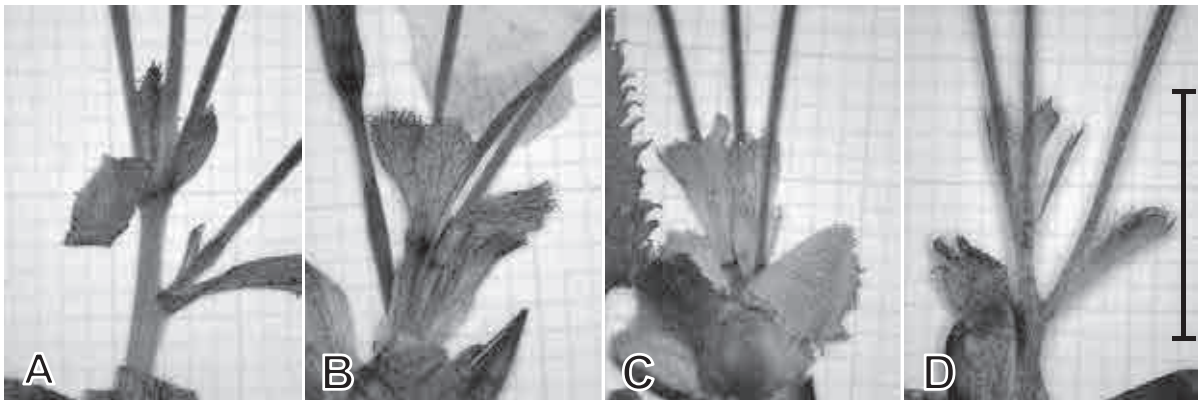


図3. 「桜川の桜」で確認されたヤマザクラ (A: P007) とヤマザクラ×カスミザクラ (B: P006), カスミザクラ (C: P557), エドヒガン×ヤマザクラ×オオシマザクラ (D: P203) の花序と苞 (P007 と P006, P203 は 2018 年 4 月 3 日採取, P557 は 2018 年 4 月 12 日採取, スケールバーは 10 mm).

Fig. 3. Inflorescences and bracts of *Cerasus jamasakura* (A: P007), *C. jamasakura* × *C. leveilleana* (B: P006), *C. leveilleana* (C: P557) and *C. itosakura* × *C. jamasakura* × *C. speciosa* (D: P203) confirmed as “Sakuragawa cherry” (P007, P006 and P203 were collected on 3 Apr. 2018, and P557 on 12 Apr. 2018. Scale bar : 10 mm).

大きなことから観賞用の栽培が進んだ結果、サトザクラや‘染井吉野’の成立にも関与しており、京都など古くからの名所ではオオシマザクラが関与したサクラが多く栽培されている。しかし、「桜川の桜」の1980年以前の植栽と考えられる個体には、明らかなオオシマザクラおよびオオシマザクラが関与したと考えられる雑種由来の種類が‘染井吉野’以外に見られなかった。オオシマザクラが関与したサクラが少ないことが大きな特徴と考えられた。

G) サトザクラ

Cerasus Sato-zakura Group

栽培品種の‘普賢象’ (‘Albo-rosea’) 3本, ‘長州緋桜’ (‘Chosuihizakura’) 1本, ‘一葉’ (‘Hisakura’) 1本, ‘大沢桜’ (‘Ohsawa-zakura’) 2本, ‘佐野桜’ (‘Sano-zakura’) 4本, ‘関山’ (‘Sekiyama’) 1本, ‘兼六園菊桜’ (‘Sphaeransha’) 2本, ‘渦桜’ (‘Spiealis’) 2本, ‘太白’ (‘Taihaku’) 1本が神社と指定域外公園を中心に全域で確認された。指定域外公園は1980年以降の植栽と考えられるが、神社で確認した個体はそれ以前に遡る

古木と思われた。サトザクラはオオシマザクラを母体にヤマザクラなどが交雑して成立した栽培品種グループであり、その多くは八重咲きで大輪の花が特徴となる。東京や埼玉などでの公園や植物園、桜の名所などに多く植栽されている状況と比較すると、「桜川の桜」では少ないと考えられた。

H) マメザクラ×エドヒガン

Cerasus incisa × *C. itosakura*

Synonym: コヒガン *C. ×subhirtella* (Miq.) Masam. et Suzuki

‘小彼岸’（‘Kohigan’）1本が神社で、‘彼岸台桜’（‘Higan-dai-zakura’）1本が指定域外公園で確認された。‘彼岸台桜’は台木用の栽培品種であり、‘八重紅枝垂’などに用いられた台木が育ったものと考えられた。マメザクラ×エドヒガンは‘小彼岸’や‘十月桜’（‘Autumnalis’）など多くの栽培品種が江戸時代から栽培されている。サトザクラ同様に他所と比較すると、「桜川の桜」では少ないと考えられた。

I) エドヒガン×ヤマザクラ×オオシマザクラ

Cerasus itosakura × *C. jamasakura* × *C. speciosa*

指定域内公園および指定域外公園に45本が確認された。花は白色の中輪で、一見したところヤマザクラと良く似ている（図1）。しかし、有毛の花柄（図2、3）や粗く先が伸びた鋸歯（図5）、葉身についた蜜腺（図6）、外側が有毛の芽鱗などは、いずれもヤマザクラには見られない特徴であり、なんらかの雑種と考えられた。桜川に多く見られるヤマザクラ×カスミザクラの可能性も疑われたが、被針形の苞（図3）や先が伸びた鋸歯（図5）、外側が有毛の芽鱗などはカスミザクラではない種が関与していることを示している。これらの個体の由来については明確ではないが、天然記念物の指定以前から、地域住民によって名勝指定域内のヤマザクラの種子由来の苗木を植えていたと伝えられている。これが事実であれば、1924年にはすでに存在していた‘染井吉野’（三好, 1924）と交雑した可能性がもっとも高いと判断される。ただし、まだ形態観察から同定しただけで、今後はDNAを用いた解析を含め、さらに詳細に検討し、正確な同定手法を確立する必要がある。

ヤマザクラと‘染井吉野’の交雑に関しては、実際に交雑した事例が報告されているが（向井, 2014）、

雑種学名は発表されておらず、その形態的な特徴についても報告例がない。今後は各地でこの雑種が大きく成長していくことが予想されるが、まだ若い個体だと開花せずにその形態的な特徴が観察できず、遺伝子汚染の状態も明らかにされていない。したがって、すでに大きく成長した個体がある桜川において、この雑種の形態的な特徴などの詳細について、さらに明らかにしていくことが全国のサクラの保全においても重要と考えられた。

J) ヤマザクラ×カスミザクラ

Cerasus jamasakura × *C. leveilleana*

Synonym: 梅鉢桜 *Prunus mutabilis* f. *angustipetala* Miyoshi, 薄毛桜 *P. mutabilis* f. *evanescens* Miyoshi, 大花桜 *P. mutabilis* f. *grandiflora* Miyoshi, 樺匂 *P. mutabilis* f. *kaba-odora* Miyoshi, 小梅桜 *P. mutabilis* f. *lucida* Miyoshi, 桜川匂 *P. mutabilis* f. *odoratissima* Miyoshi, 白雲桜 *P. mutabilis* f. *pura* Miyoshi, 太枝桜 *P. mutabilis* f. *robusta* Miyoshi, 磯部匂 *P. mutabilis* f. *vulgaris* Miyoshi

全域から85本が確認された。ヤマザクラやカスミザクラと同様に樹齢50年を超えと思われる個体も残されており、名勝に指定される以前から栽培されていたと考えられた。花は白色から淡紅色の中輪、若芽は赤色から褐色、緑色と変異が多く、一見したところヤマザクラと良く似ている（図1）。しかし、幅広の苞（図3）、幅広の葉身（図4）、粗い葉の鋸歯（図5）などは、いずれもヤマザクラには見られない特徴であり、カスミザクラと交雑した結果と考えられた。

三好が桜川産のヤマザクラの品種として記載した分類群のうち、薄毛桜と白雲桜、樺匂は、神社に植栽されている個体の観察結果から、ヤマザクラ×カスミザクラと同定された。梅鉢桜は桜川市内で栽培されているが、調査区域外であったので、本調査では観察していない。大花桜と小梅桜・太枝桜・磯部匂は、現在栽培されていない。これらは他の分類群と同様にタイプ標本が確認されていないことから、慎重に判断しなければならないが、現時点での観察結果と三好（1916a; 1921a; 1921b）の記載から、梅鉢桜と薄毛桜・大花桜・樺匂・小梅桜・桜川匂・白雲桜・太枝桜・磯部匂の9分類群はヤマザクラ×カスミザクラと判断した。

ヤマザクラ×カスミザクラについては、その存在は勝木（2009）などで報告されているが、雑種学名は発表されておらず、形態的な特徴についても報告例が

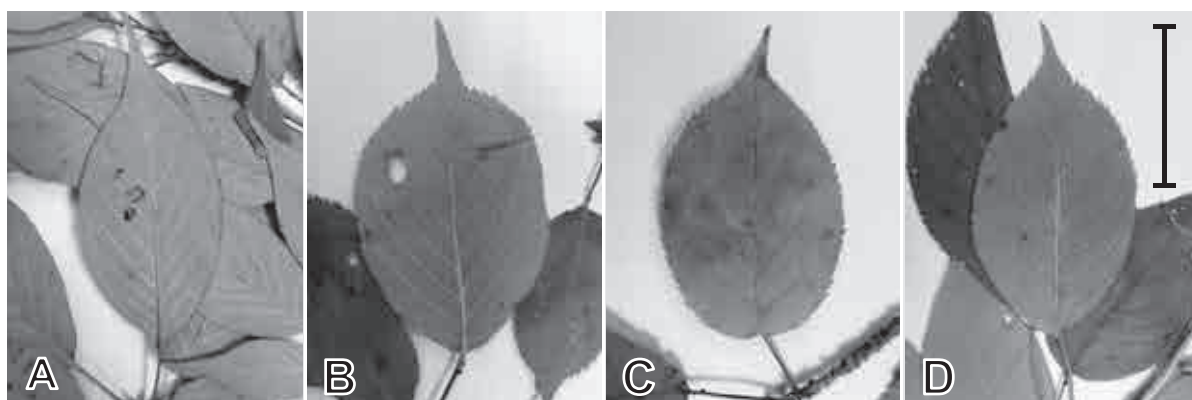


図 4. 「桜川の桜」で確認されたヤマザクラ (A: P007) とヤマザクラ×カスミザクラ (B: P006), カスミザクラ (C: P557), エドヒガン×ヤマザクラ×オオシマザクラ (D: P203) の葉 (いずれも 2018 年 6 月 28 日採取, スケールバーは 40 mm).

Fig. 4. Leaves of *Cerasus jamasakura* (A: P007), *C. jamasakura* × *C. leveilleana* (B: P006), *C. leveilleana* (C: P557) and *C. itosakura* × *C. jamasakura* × *C. speciosa* (D: P203) confirmed as “Sakuragawa cherry” (collected on 28 Jun. 2018. Scale bar : 40 mm).

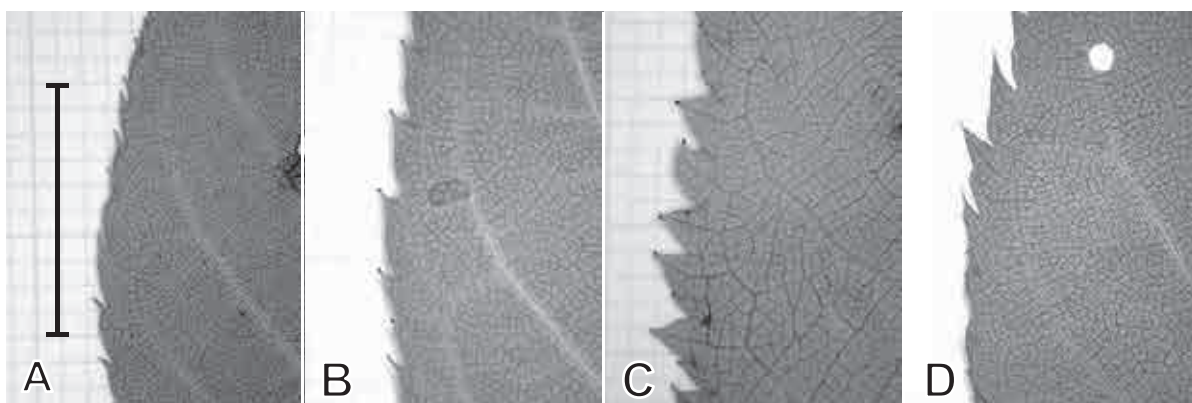


図 5. 「桜川の桜」で確認されたヤマザクラ (A: P007) とヤマザクラ×カスミザクラ (B: P006), カスミザクラ (C: P557), エドヒガン×ヤマザクラ×オオシマザクラ (D: P203) の葉縁裏面と葉縁 (いずれも 2018 年 6 月 28 日採取, スケールバーは 10 mm).

Fig. 5. Lower surface and margin of leaves of *Cerasus jamasakura* (A: P007), *C. jamasakura* × *C. leveilleana* (B: P006), *C. leveilleana* (C: P557) and *C. itosakura* × *C. jamasakura* × *C. speciosa* (D: P203) confirmed as “Sakuragawa cherry” (collected on 28 Jun. 2018. Scale bar : 10 mm).

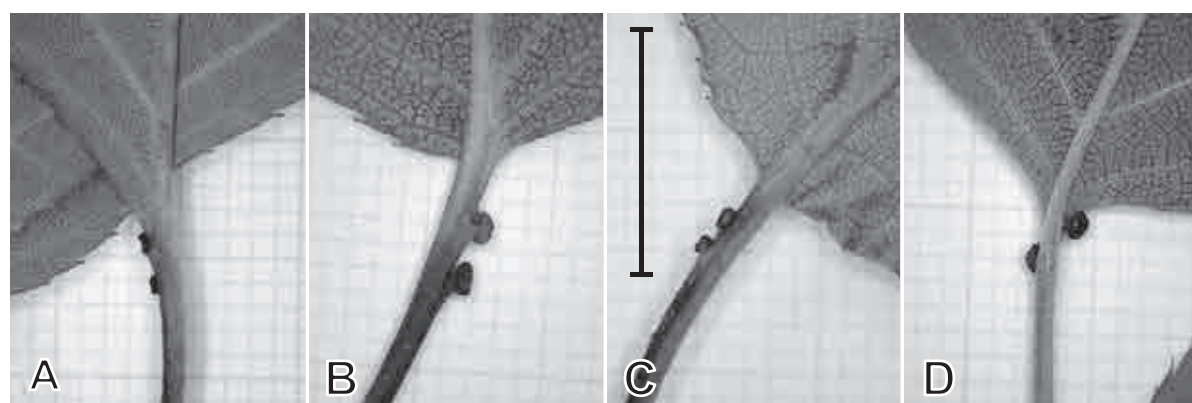


図 6. 「桜川の桜」で確認されたヤマザクラ (A: P007) とヤマザクラ×カスミザクラ (B: P006), カスミザクラ (C: P557), エドヒガン×ヤマザクラ×オオシマザクラ (D: P203) の葉基部と葉柄 (いずれも 2018 年 6 月 28 日採取, スケールバーは 10 mm).

Fig. 6. Bases of leaf blade and petioles of *Cerasus jamasakura* (A: P007), *C. jamasakura* × *C. leveilleana* (B: P006), *C. leveilleana* (C: P557) and *C. itosakura* × *C. jamasakura* × *C. speciosa* (D: P203) confirmed as “Sakuragawa cherry” (collected on 28 Jun. 2018. Scale bar : 10 mm).

ない。本報告において、桜川はもともとヤマザクラ×カスミザクラが多く生じていたと考えられた。したがって、桜川においてこの雑種の形態的な特徴などの詳細について、明らかにしていくことが「桜川の桜」を保全していく上できわめて重要と考えられた。

なお、名勝指定において「東北産ノ品種ニ属スル白山桜」、天然記念物指定において「総数 577 本に及ぶヤマザクラの群」と記述されている（文化庁 2018）ことから、指定当時から植栽されていても「染井吉野」は名勝・天然記念物の対象ではないと考えられた。

K) エドヒガン×オオシマザクラ

Cerasus itosakura × *C. speciosa*

Synonym: ソメイヨシノ *C. ×yedoensis* (Matsum.) Masam. et Suzuki

全域から 85 本が確認された。いずれも栽培品種の「染井吉野」（「Somei-yoshino」）であった。本数ではヤマザクラよりも少ないものの、ヤマザクラよりも樹高や樹幹幅が大きな個体が多く、開花時にはよく目立っていた。三好（1924）においても、「近年櫻川ニハ馬場ノ中ニ染井吉野ヲ混植シ又馬場ノ傍ニモ同種ノ櫻ヲ多ク植エタリ」と記録されており、当時から植栽されていたことが確認される。ただし、樹齢 100 年を超えると考えられるサイズの個体は見当たらず、多くは公園造成の 1980 年以降に植栽されたと思われた。花は淡紅色で大輪、ヤマザクラよりもやや早く咲くこと、花が咲く時に若芽が伸びないことが特徴である。また、サクラ類でんぐ巣病が高い割合で発症していた。

まとめ

茨城県桜川市の国の名勝・天然記念物のサクラの種類を調査したところ、雑種・栽培品種グループを含む 11 分類群を確認した。雑種分類群の明確な識別は困難であるが、勝木（2016）を改変した検索表を図 7 に示した。このうち、ヤマザクラとカスミザクラ、およびその種間雑種は周囲の自然林に由来し、これらが本来の名勝・天然記念物の対象であると考えられた。しかし、植栽された「染井吉野」や、それに由来すると考えられるヤマザクラ×「染井吉野」も多数確認され、これらは名勝・天然記念物の対象ではないと考えられた。今後、名勝・天然記念物を適切に保全していくためには、指定区域内にも外来の種類が混在していることに留意し、指定対象であるヤマザクラとカスミザクラ、およびその種間雑種を増殖していく必要がある。

1a. 花弁はふつう 5 枚.	
2a. 葉柄, 花柄, 花床筒は有毛で, 葉身に蜜線がある. 花床筒はつば形.	
3a 葉縁に粗い 2 重鋸歯あるいは単鋸歯がある.	
4a. 花床筒はくびれたつば形. 葉は狭楕円形で, 細かな単鋸歯がある. 花は散形花序	B) エドヒガン
4b. 花床筒はややくびれた筒状壺形. 葉縁に粗い鋸歯がある. 花は散形花序	K) ソメイヨシノ
4c. 花床筒はややくびれた筒状壺~筒形. 花は散房花序	I) エドヒガン×ヤマザクラ×オオシマザクラ
3b 葉縁に欠刻状の 2 重鋸歯がある. 花床筒のくびれは長く筒状	H) ママザクラ×エドヒガン
2b. 葉柄, 花柄, 花床筒は無毛あるいは有毛で, 葉柄に蜜線がある.	
3c 葉には単鋸歯または 2 重鋸歯があるが, 欠刻状にはならない.	
4d. 花弁が濃紅紫色. 花床筒は太く漏斗状の鐘形で, 平開せずに下向きに咲く	A) カンヒザクラ
4e. 花弁は白色から紅色. 花床筒は細く筒形か鐘形. 平開して咲く.	
5a. 花は散房花序で, 萼片に鋸歯がある. 葉は裏面が淡緑色, 縁に芒状の鋸歯がある	F) オオシマザクラ
5b. 萼片に鋸歯がなく, 全縁. 葉縁の鋸歯の先は腺となる.	
6a. 花は散形花序. 葉は広楕円形で裏面が帯白色, 葉縁は粗い単鋸歯がある	E) オオヤマザクラ
6b. 花は散房花序.	
7a. 葉は倒卵形で, 裏面は淡緑色, 葉縁に粗い鋸歯. 葉柄や花柄に毛がある. 苞は倒三角形	D) カスミザクラ
7b. 葉は倒卵~長楕円形で, 葉縁に粗い鋸歯. 葉柄や花柄は無毛あるいは有毛	J) ヤマザクラ×カスミザクラ
7c. 葉は長楕円形で, 裏面は帯白色, 葉縁に細かい単鋸歯. 葉柄や花柄は無毛. 苞は長楕円形	C) ヤマザクラ
1b. 花弁は 10 枚以上の八重咲き. 花床筒はふつう無毛で筒形か鐘形	G) サトザクラ

図 7. 「桜川の桜」で確認されたサクラの検索表.

Fig. 7. The identification keys for flowering cherries confirmed as “Sakuragawa cherry”.

謝 辞

調査に協力していただいた桜川日本花の会の下条高司氏及び桜川市の牧村祐樹氏、櫻井大樹氏ほか多くの関係した皆さんにたいへん感謝いたします。

引用文献

- 文化庁. 2018. 国指定文化財等データベース: https://kunishitei.bunka.go.jp/bsys/index_pc.html, 2018 年 7 月 24 日閲覧.
- 勝木俊雄. 2009. カスミザクラ. 日本樹木医編集委員会 (編). 日本樹木誌一, pp. 215-226, 日本林業調査会.
- 勝木俊雄. 2016. サクラ属. 大橋広好・門田裕一・木原浩・邑田仁・米倉浩司 (編). 改訂新版 日本の野生植物 3, pp. 61-68, 平凡社.
- 勝木俊雄. 2017a. サクラの分類と形態による同定. 樹木医学研究, 21: 93-104.
- 勝木俊雄. 2017b. 新たに確認された三好学教授のサクラ標本. 小石川植物園後援会ニュースレター, (46): 1-4.
- 河津英子. 2001. スモモ属. 田中徳久・木場英久・勝山輝男 (編). 神奈川県植物誌 2001. pp. 845-856, 神奈川県立生命の星・地球博物館.
- 河津英子. 2003. サクラ属. 千葉県史料研究財団 (編).

- 千葉県の自然誌. pp. 286-289, 千葉県.
- Miyoshi, M. 1916a. Japanische bergkirschen, ihre wildformen und kulturrassen. Journal of the College of Science, Imperial University of Tokyo, 34 (Art 1): 1-175.
- Miyoshi, M. 1916b. Der Riesenkirschbaum von Ishido. The Bot. Mag., Tokyo, 30: 321-324.
- Miyoshi, M. 1920. Untersuchungen uber japanische kirschen I. The Bot. Mag., Tokyo, 34: 159-177.
- 三好 学. 1921a. 櫻花概説. 102 pp., 芸艸堂.
- 三好 学. 1921b. 桜花図譜 上巻. 71fig., 芸艸堂.
- 三好 学. 1924. 櫻川の櫻. 三好 学 (編). 天然紀年物及名勝調査報告 植物之部第四輯. pp. 134-136, 内務省.
- 向井 譲. 2014. ソメイヨシノとサクラ野生種との交雑とその要因. 森林科学, (70): 21-25.
- 桜 川 市. 2018. HP: <http://www.city.sakuragawa.lg.jp/index.html>, 2018 年 7 月 24 日閲覧.
- サクラサクリプロジェクト. 2018. HP: <http://sakuragaworld.com/modules/tiny14/index.php?id=5>, 2018 年 7 月 24 日閲覧.
- 鈴木昌友・清水 修・安見珠子・安 昌美・藤田弘道・中崎保洋・和田尚幸・野口達也. 1981. 茨城県植物誌. 339 pp., 茨城県植物誌刊行会.
- Tsuda, Y., M. Kimura, S. Kato, T. Katsuki, Y. Mukai and Y. Tsumura. 2009. Genetic structure of *Cerasus jamasakura*, a Japanese flowering cherry, revealed by nuclear SSRs: implications for conservation. J. Pl. Res, 122 (4): 367-375.

(要 旨)

勝木俊雄・日向岳王・渡邊雄司・磯部 亮・山川拓也. 茨城県桜川市の国指定名勝・天然記念物のサクラの種類. 茨城県自然博物館研究報告 第 21 号 (2018) pp.81-89.

「桜川の桜」は茨城県桜川市にある国の名勝および天然記念物のサクラである. この種類を明らかにするため, 計 493 個体を調査した. この結果, 周囲の自然林にも自生するヤマザクラとカスミザクラ, およびその種間雑種を多く確認し, これらが指定対象であると考えられた. しかし, 植栽された「染井吉野」やオオシマザクラ, オオヤマザクラなど 7 分類群のほか, 「染井吉野」とヤマザクラが交雑したと考えられる雑種も確認された.

(キーワード): カスミザクラ, ヤマザクラ, 「染井吉野」, 交雑.

